

【資料名】小豆島八十八箇所霊場案内絵図  
 (香川県立文書館蔵文書303-152)  
 【年代】昭和7年1月21日発行  
 【作成】著作者兼印刷発行人 香川県小豆郡大鐸村大字肥土山 大森国松



デジタル資料室 小豆島八十八箇所霊場案内絵図

## 【解説】

全国には四国八十八箇所霊場を模した霊場巡りが多くある。数時間で廻ってしまえる小規模なものから数日かかるような大規模なものまで様々だ。四国八十八箇所を全て廻るには、距離にして1200km、時間にして40日以上かかるといわれているため、都合がつかない人々のために地域に根付いたのがこの「ミニ四国遍路」ともいべきものであった。

香川県は小豆島にも同様に八十八箇所霊場がある。小豆島全体を一周する形で全長150kmあり、徒歩では一週間ほどで一巡できるが、山岳寺院や山越えがいくつもあり、ミニとはいえ決して楽ではない。

一番札所は史料の右下あたりの「洞雲山」。ここは夏至の頃になると岩肌に観音様の姿が浮かび上がることで有名で、現在でも多くのお遍路さんや観光客が訪れる。この洞雲山を始め堂や庵は無人で、朱印を管理する人がいない。そのため史料の凡例を見ても分かるように、寺院と仏堂を色分けし区別していて、寺院において周辺の仏堂の分もまとめて納経することとなっている。寺院名の上部の三角形の中の数字がいただける納経の数である。

また、小豆島は観光資源に富んだ地であり、名勝古跡など見どころが多くあるため、遊覧しつつ巡礼ができる。史料中には、寒霞溪などの景勝地や、現在はエンジェルロードとして親しまれている余島のほか、比較的新しい観光名所であるオリーブ園（小豆島でのオリーブ栽培は明治41年ごろ開始）などが記載されている。宿屋もいくつも存在しているようなので、当時島巡りをして余暇を楽しんだ人は多くいたのだろう。

もちろん現在も小豆島は香川県四大観光地の一つであり、全国から大勢の観光客が訪れている。特に今年（2022）も開催中であるので、長期休暇の際はぜひ小豆島で八十八箇所ないし観光を楽しんでほしい。